

## キリストの聖体（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

### （一）聖書朗読：ヨハネ6：51-58

イエスは言われた。「私は、天から降って来たパンである。私の肉を食べ、私の血を飲む者は、いつも私の内におり、私もまたいつもその人の内にいる。また、彼は永遠の命を得、私はその人を終わりの日に復活させ、永遠に生きる。生きておられる父が私をお遣わしになり、また、私が父によって生きるように、私を食べる者も私によって生きる。」

### （二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#1524、1384-1385、1391-1398、2825、2837；YOUCAT #218-217、219-221）

主の祈りにおける日ごとの糧を願う意味は、パンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるということです。つまり、神のことばとその霊とによって生きています。キリストのご聖体は、命のパンのように、私たちの霊的いのちに絶対に必要な不死の妙薬になります。だから、教会はこの世を去る前に危篤する人々に、病者の塗油のほか、旅路の糧としての聖体を授けます。御父のもとに移るときのキリストの体と血の拝領は、「私の肉を食べ、私の血を飲む者は、永遠の命を得、私はその人を終わりの日に復活させる」というキリストの教えに従うことです。だから、エウカリスチアは、死んで復活されたキリストの秘跡であり、死から永遠の命へ、この世から御父のもとへの過越しの秘跡になるのです。実は、これは終末のことだけではなく、キリストの内に生活し、さらに生かされる命の源泉であるエウカリスチアの会食です。「生きておられる父が私をお遣わしになり、また、私が父によって生きるように、私を食べる者も私によって生きる。」

キリストのお招きに答えるために、この重要で聖なる時の備えなければなりません。例えば、聖体拝領の前に、大罪の状態でゆるしの秘跡を受けたり、瞑想と祈りの精神を守ったり、断食の遵守をしたり、尊敬、謙遜など態度を表したりします。通常の食べ物が私たちの肉体的命にもたらすものを、聖体拝領は感嘆すべきしかたで私たちの霊的いのちにもたします。この秘跡によって、永遠の命を与え、復活したキリストとの一致を強めます。それで、罪から離れさせ、大罪を犯さないように守ってくれます。また、教会を造り、キリスト者の一致を促進します。さらに、貧しい人々との連帯を強めさせます。

### （三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号#276、287-293）

キリスト者の生活の中で、聖体の秘蹟の重要性：

イエスは過越祭の最後晩餐を行いながら、聖体を制定されました。教会は主の命令に従い、感謝の祭儀を挙行します。特に主日におけるイエスの復活の記念です。感謝の祭儀にはキリストと私たちとの一致と交わりを強めます。洗礼と堅信の際に受けた恵みの命を維持し、またそれを新たにし、隣人愛の実践へと促します。愛を強め、小罪をゆるし、大罪を犯さないように守ってくれます。

最後の祈り：感謝の祭儀において、一つの奉献文を選んでください。